医療タイムス

週刊医療界レポート

2015.8/24 No.2220

特集

事例　地域とつながる
病院ボランティアと市民講座

特別企画

借入金利の動向と病院のあるべき対応策（前編）

銀行の姿勢は金利引下げを承諾する傾向に

ヘルスケアマーケティング研究所
所長
鈴木喜六氏

タイムスレポート

「福島を何とかしたい」―
熱き思いが地域を作り、人を集める
医療法人誠励会（福島県平田村）

Top News

受診控え懸念し、「健康ポイント」にルール　厚労省
少子化対策で骨子案　政府検討会

冬の時代の診療所経営

近藤理論批判本、4冊読み比べて

医療法人社団裕和会理事長
長尾クリニック(尼崎市)院長 **長尾 和宏**

1958年香川県生まれ。東京医科大学卒業、医学博士、日本慢性期医療協会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授、近著「平穏死・10の条件」「胃ろうという選択、しない選択」「平穏死という親孝行」など。
クリニックHP　http://www.nagaoclinic.or.jp
長尾和宏オフィシャルサイト　http://www.drnagao.com/index.html

7月30日、「長尾先生、近藤誠理論のどこが間違っているのですか？」(ブックマン社)という本が世に出た。たった5日で重版されたが増刷が間に合わず、書店もアマゾンも品切れ状態が続いてご迷惑をおかけしている。本書はタイトルにあるとおり近藤誠理論を考える本である。2年前に出た「医療否定本に殺されないための48の真実」(扶桑社)に続く第2弾ともいえるが、今回も単なる批判本ではないことを最初に断っておきたい。2年前の本も重版を重ね文庫化され台湾でも翻訳本が読まれている。今回の本も出版直後に台湾や韓国から翻訳本のオファーをいただき驚いている。というのも台湾や韓国でも近藤誠医師の著書は人気が高く、その批判本ということで関心が高いらしい。

本書では「近藤誠理論」を、「がんもどき理論に基づくがん放置療法」と定義し論評している。世の中にゴマンとあるがんを"がんもどき"と"本物のがん"の2つしかないと考えるのか、その中間がいくらでもあると考えるのかは実は大変に難しい命題である。というのも、がん転移遺伝子が発見されており、転移して死に至るがんには100%発現しており、死なないがんには一切発現していないというエビデンスも報告されているからだ。しかしエピジェネテイック医学の視点からは二元論ではとても説明がつかない、と考えるのが一般的であろう。中にはそのような単純化できるがんもあるかも、という程度である。おそらく多くのがんはその間にグラデーションのように存在し、常に揺れ動いている、いうのが私のがんのイメージである。30ページ以上に及ぶ漫画から始まるのだが、近藤誠現象を生んだ本質とは何かについて解析している。また近藤誠理論に"洗脳"された肺がんを放置している女性ジャーナリストとの対話を通じて、マインドコントロールの怖さとその呪縛からの脱出を描いているのが第1のポイントである。そして何より、近藤誠現象という国民のがん医療への不満を、医療界は今後しっかり受け止めていくべきであるというのが本書で最も言いたいことである。

奇しくも、ほぼ同時期に近藤誠批判本のような書籍が私を含めて4冊出ることになった。国民から見れば、「医療界が寄ってたかって近藤センセイをいじめているー」と受け止められるかもしれないが、単なる偶然である。さらに言及するならば、私以外の3冊と私の本は全く違う内容であることを、ここでしっかり述べておきたい。他の3冊は純粋で徹底的な「近藤批判本」であろうが、私の本は近藤誠氏の功績をしっかり認める一方、がん医療界も批判している。換言すれば、他の3冊は医者目線かもしれないが、私の本はどこまでも患者目線で書いたつもりである。であるので、近藤誠教の信者さんからの相変わらずの批判に加えて、新たにがん医療界からの批判にも喜んで受けて立つ覚悟でいる。

願わくば、本誌の読者の皆様にたとえ立ち読みでいいので、4つの書籍を読み比べていただき、感想なりご批判をお寄せいただきたい。私自身は、近藤誠現象に対する最終結論のつもりで本書を書いた。超高齢社会を迎え、過剰医療への警告は、近藤誠氏のみならず、私自身にとっても今後のテーマであるからだ。